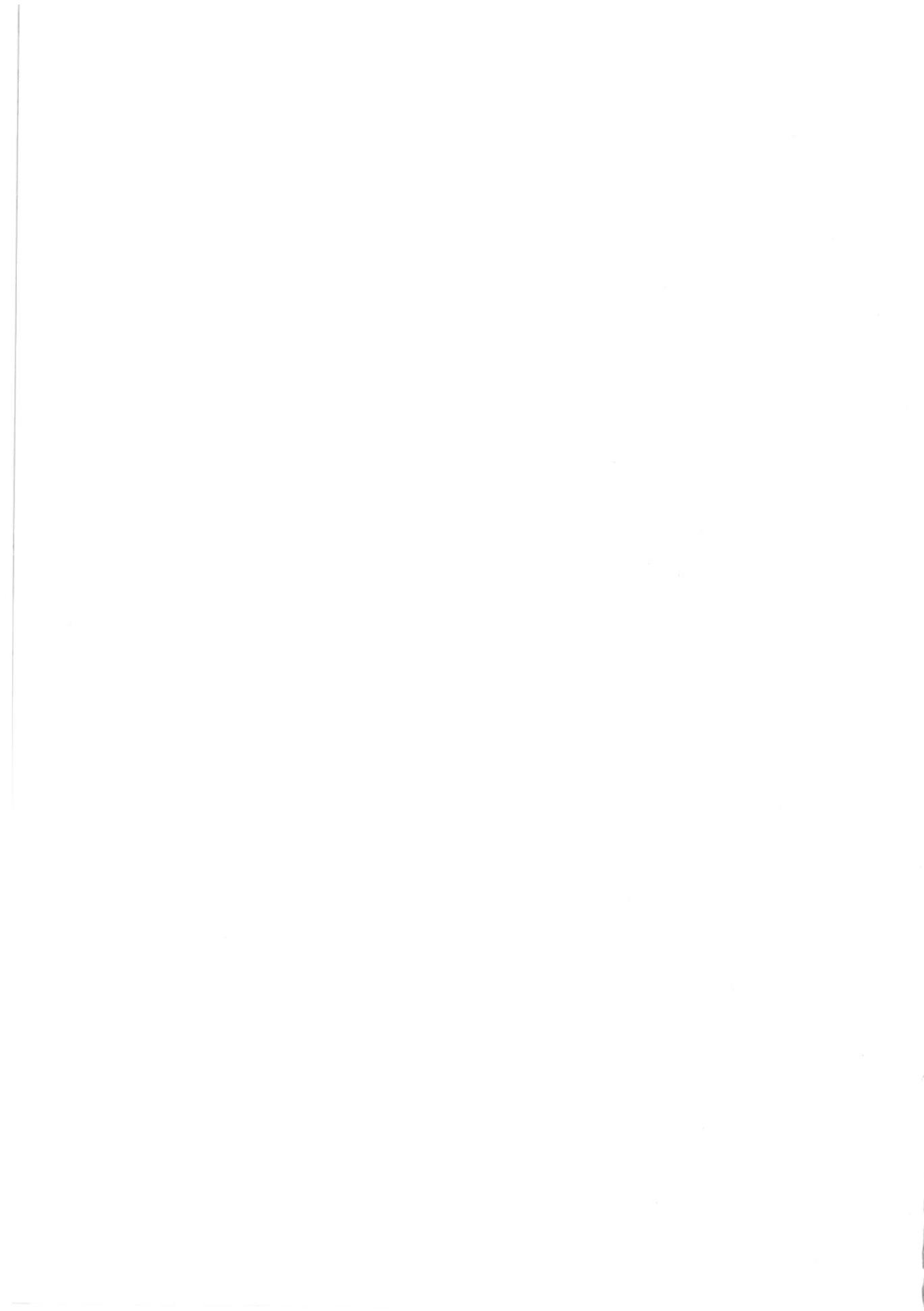




平成 23 年度  
沖縄県立博物館・美術館 美術館教育普及報告書



## CONTENTS

- 04 はじめに
- 05 本年度の取り組みとして
- 06 アーティスト（ギャラリー）トーク
- 07 キュレータートーク・学芸員の声
- 08 作家の声
- 09 教員向け講座
- 10 鑑賞ボランティア活動報告
- 11 ボランティアスタッフの声
- 12 アウトリーチ
- 13 生徒の声
- 14 美術講座
- 16 ワークショップ
- 18 展覧会関連ワークシート作成
- 20 その他催事
- 22 展覧会関連普及催事 「國吉清尚－土と炎に生きた魂の軌跡－」  
「生誕100年記念展 岡本太郎と沖縄」
- 23 「印象派の誕生展」
- 24 「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」
- 25 「沖縄近代彫刻の礎 玉那霸正吉－彫刻と絵画の軌跡－」
- 26 移動展 in 宮古島
- 27 バックヤードツアー
- 28 実施統計
- 30 さいごに
- 31 奥付

## はじめに

平成 19 年 11 月に開館した沖縄県立博物館・美術館は今年で 5 年目に入り、入館者数は 200 万人を超えるました。これも県民の皆様をはじめとする県内外の多くの方々の当館に対する期待の表れだと感じており、また、我々の責任の重さを示しています。

美術館の主な活動内容には 5 つの柱があります。

収集・保存・調査研究・展示公開、そして、教育普及があげられます。美術館が単なる施設ではなく、文化や知識の発信地となるために、美術館学芸員の専門的なアプローチとともに、誰もが美術や芸術に対する「美意識」を共有することができる場として教育普及活動があると思います。

本報告書は、平成 23 年度に実施した企画・常設展関連催事や作品理解を深めるための活動、実技講座やワークシート製作、バックヤードツアー・鑑賞ツアー、アウトリーチや移動展などの幅広い活動の内容をまとめたものです。

本報告書が、皆様にとって県立美術館を活用する一助になれば幸いです。

沖縄県立博物館・美術館 館長 白 保 台 一

## 本年度の取り組みとして

本年度の教育普及事業では、学校との連携を強化する、ボランティアの育成、学校団体へのプログラムの作成に重点をおきました。また、ワークショップも充実を図り、大人向けの講座（絵画・デザイン・彫刻）、夏休み子ども向けワークショップを開催し、美術館に多くの人が関わる創作活動を行いました。

さらには、シンポジウムや講演会、アーティストトークやキュレータートーク、アウトリーチにおいても展示会や作家・作品の理解が深まるよう取り組みました。



## アーティスト(ギャラリー)トーク

アーティストトークやギャラリートークでは、作家自身から作品や制作に関する話を直接聞く機会、あるいは、作家と縁のある方から作家に関する人柄や思想、人生について間接的に話を聞く機会である。

この時間では、作品の制作過程における制作技法や制作スタイルの変遷など、作品の背景にある作家の様々な思いや葛藤などを本人の語りで聞くことができる。今まで、自分にとって遠い存在であった作家や作品との距離が急速に縮むことになる。それは、作品や作家に対する興味・関心、理解が深まることを意味する。

## キュレーター・トーク



キュレーター・トークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品について語り、そして展覧会を開催するにあたり進めてきた調査・研究を語る場である。

観覧者にとって、学芸員の話を聞くことは「美術作品」への関心を高め、作品理解を深める一つの要素となる。また、学芸員にとっては、観覧者にコンセプトが伝わったか、作品理解が深まったかを知る機会となり、今後の展覧会に向けてのヒントが生まれてくる。

一つの展示の設計者である学芸員から直に話を聞くことで、より深く作品と向かい合うことのできる時間がそこに約束されている。



## 学芸員の声

最近「つくし目」という言葉を聞きました。春先、子どもたちが雪の中から顔を出す「つくし」を真っ先に見つけるのは、目線がつくしの高さにあるから…というお話。普段、展示室の裏側にいる仕事柄、意識していたい言葉だと思います。

キュレーター・トークは、作家や作品、そして展示について、来館するお客様と顔を合わせながら伝えられる場として、学芸員にとって、大切で貴重な機会です。来館者とのコミュニケーションの中から学びを得たり、特にご年配の方からは、文字や調査からは得られない大切なエッセンスを享受させていただく事も多く、これまでにかけがえのない言葉をいくつもいただきました。

これからも来館者と交感し合える豊かな場を生みだしていければと思います。

(大城仁美)



美術家が自らの制作について語る機会は限られている。多くの雄弁な論評や解説に囲まれた作品は、作者の意図や背景の骨格を紐解いてくれるのも事実であろう。しかし、作品が生まれ出た場面は展示される会場や、多くの人々が観覧する場所では無い。人知れず、思案に挑む現場である。その現場に置いて、作者が何を考え、何に感化され、何に戸惑っていたのか・・・は、知りうる者は極めて少ないものである。本来、作家が制作に執着する所以は、その作品が生み出される場面に立ち会い、その恍惚とした瞬間を待ちわびているからの他ならない。微塵の揺らぎの無い確信や、悶々とする自問自答の中にこそ作品の本質が隠されているからである。

制作者の手を離れて一人歩きして行く作品は、少しずつ意味を変化させながら見る者に語りかけ始め、またその場の力を取り込みながらその印象さえ変え始める。作品を作家自身が語るという事は、その生まれた意味を語ると言う事である。

(粟国久直)

アーティストトーク

「サイト・シーキング沖縄美術をめぐる旅～島嶼性と異化」

講 師：粟国久直 氏（美術家） 日 時：5月21日（土）15:00～16:00

場 所：ホワイエ

参加者：34人

「トントンギコギコ図工の時間」  
上映会＆トークショー

映画監督と小学校図工専科の教諭、この二人のプロフェッショナルの出会いが全ての始まりである。その中で、キャストに選ばれたのは第三日野小学校の児童たち。この映画の中で図工の「創作活動」のおもしろさ、「子どもの思い」から生まれる作品、仲間と認め合う「人間関係」、普通にある図工の時間を子どもの目の高さで捉えている。等身大だからこそ、この映画が教育ドキュメンタリーの名作となったのである。

上映会後のトークショーでは、映画ができるまでの過程や児童の図工を通しての変容など映画では紹介できなかったエピソードなどを紹介していただき、映画の裏話までもが作品の魅力をさらにひきだす内容であった。



## 教員向け講座

## 「トントンギコギコ図工の時間」上映 + トーク

講 師：野中真理子 氏（映画監督）

内 野 務 氏（東京都品川立第三日野小学校図工専科教諭）

日 時：10月1日（土）13:00～17:00

場 所：3F 講堂

参加者：42人

美術館を運営する上で、ボランティアの役割は大きい。彼らの美術館をサポートする姿勢と熱意に敬意を表する。美術館の人員不足を彼らの献身的な活動で補っているからである。

今年度は、毎月定例の鑑賞ツアーをはじめ学校団体の見学に際し、児童・生徒の美術館団体鑑賞プログラムを支援してくれた。ボランティアの支援があったからこそ、グループ毎に対話式の鑑賞を行うことができた。はじめて美術館に来て作品を鑑賞する多くの児童・生徒に、「美」への種を植えてくれた功績は大いに賞賛されて良い。今年度の成果と課題を次年度の美術館団体鑑賞プログラムに生かしていきたいと考える。





## 「一枚の絵が伝えたこと」

真栄平 史子さん

夏休みに福島県の小学生が鑑賞ツアーに来た。「ニシムイ以降の美術家たち」が開催され、戦後復興期（1945年～49年）のニシムイ美術村の美術家の作品が展示されていた。6年生ぐらいの男の子が1枚の絵をじっと見ていた。それは「収容所」というタイトルで米軍占領下の1947年の収容所の様子を描いた山元恵一先生のデッサンであった。ざらしのような紙に鉛筆で描かれている。沖縄の人々が粗末な掘立小屋で生活し、かたわらでは子ども達が遊んでいる。側には米兵も描かれている。ふと、「似ている」とつぶやいた男の子は、今の被災地と重ねたのだろうか。沖縄も焼け野原から復興してきた。65年前の一枚の絵から何か伝えられ教えられるものを感じたであろう。被災地が一日も早く復興することを願ってこの鑑賞ツアーの子どもたちにエールを送りたい。

## 美術館鑑賞ボランティアの感想 屋比久 宮野さん

「アートに触れる機会を増やしたい。」それをきっかけに昨年の春からボランティアに参加しました。私の予想以上に、多くの充実した美術講座やその他多くのイベントに参加する機会をいただき、満足した一年間を務めさせていただきました。

美術に関してまだ知識が乏しい私に務まるか初めは心配でしたが、計4回の鑑賞ツアーを通して現在は参加者と様々な眺めを共有することが楽しめるようになりました。「対話式」の鑑賞方法は私にとっては新しく、新しいアートの楽しみ方を開拓することができました。

これからはこの対話式鑑賞ツアーをもっと知ってもらい、来館していただける方にこちら側の楽しさが伝わるようなツアーを提供していきたいです。





美術作家を学校現場に招聘。作家自身から制作の過程を直接学び、また作家との対話を通して制作における課題や疑問に対しての解決となるヒントを得ることで今後の美術作品制作に生かせる機会になったといえる。

職業として作家という選択を示唆させ、講演とあわせて行った作品講評では構図や色調だけでなく「見方」について多くの助言を与えた。

## アウトリーチ事業「土曜講座」

講 師：与那覇大智 氏（画家）  
日 時：9月 10 日（土）8:00～11:20  
場 所：開邦高校視聴覚室  
参加者：59人（芸術科美術コース1～3学年）

## 1. 特設講演会 演題「美術と私—作家活動を通して」

作品を仕上げるとき、1つ1つの細部にまで、考えや思いが入っているんだなと話を聞いて分かった。他人が作った作品を作った本人の説明付きで、みるとほとんどなかったので、作品の1つ1つをどんな材料で作ったのか、どんな気持ちのときに作ったのか聞けてよかったです。穴をあけて、そこから絵の具を出して作るとか工夫しながら作品は作るんだなと知ることができた。見たままを描くことも大事だけ、そのものを見たときの気持ちとか思いを入れながら描くことも大事だと感じた。またいろいろな画家の作品を勉強した方がいいと思った。話を聞いていて、ほとんどの画家の名前も作品も知らなかつたので、もっといろんな画家を知っていろんな画家の作品を見てみたいと思った。色についてとても細かく見ることも大事だと思った。色それぞれの変化を気にしてみると、いろんな作品が作れそうだなと思った。1つ見たもので、1つの作品を作るだけじゃなくてさまざまな作品を作れるんだなと感じた。1つ見たものでも表現のしかたですごくうきがう作品ができると知った。

## 2. 作品講評会

モチーフのセッティングから絵を描いてる気持ちでいいといけないんだなと思った。色も形もタッチもバランスが必要なんだなと思った。いろんな人のいろんな絵を沢山みることが大事だと知った。興味がないものも好きなものもなんでもみることが大事で実物を見ることが大事だと知った。後々、興味をもつたとき頭から出てくるらしい。だからきれいな絵でも、あんまりだと思う絵も、その気持ちを大事にしなければならないと知った。

油絵は、薄く絵の具を塗るときは暗いところに塗り、チューブから出した濃い絵の具は明るいところにぬるのが基本だと知った。だから薄く透明な絵の具だけでもチューブから出したままの濃い絵の具だけでもだめだということを感じた。

3年6組25番 氏名：上原 恋

## 1. 特設講演会 演題「美術と私—作家活動を通して」

今回、初めて作家活動をしている方の生の声をかけて本当に勉強になりました。始めは興味のなかつた分野だといっていた抽象画を中心に制作しているという事で、いろんなものに影響をうけながら「光、奥行き」から「奥行き、色彩」に興味がうつりかわっていく過程を絵を鑑賞しながらの講演でした。

正直、抽象画をあまり注目してみた事のない私でしたが、解説を聞きながら絵を見るといろいろな解釈、イメージ、またそのものの画面が美しいなどたくさんの事を考えられるジャンルだという事を実感し、鑑賞するという事で大分印象がかわりました。

絵を制作していく上でも理想とするものに近づくために意図的に研究を重ねていました。絵をモノクロにして明暗だけで絵を見直してみるという方法はまさに私達が学んでいる基礎でこれからもしっかり意識していきたいです。

試みを重ねていく中で悩む事も多いけれど失敗も一つの経験で、判断をいそがず悩み続ける勇気も大事だと教えていただきました。

進路について考える中で結論をいそいで焦っている部分もあったので、この時期にお話をかけて本当によかったです。

## 2. 作品講評会

講師の先生が生徒作品を講評してくれていました。友人の絵の講評をきいても制作している環境、意図、制作中の悩みについても周りで制作過程を見ていた私達が驚くくらい読み込んでいて、鑑賞するという力も大事な事だと思いました。

絵がうまくいっていないのは、目、頭を通して技術に連動する事が難しいからでその中で描き方を工夫するというのも一つの手。インプット→デジタル、アウトプット→リアルでは成立しない事もある為、好きなものでも嫌いなものでも実物を見て背景を知りたくさんの引き出しをつくっていく事で、自分の絵の幅にもつながるそうです。

私達の学習課題としての取り組み方から、一枚の絵としての仕上がりについて二つの視点から招き方の提案や指導があって勉強になりました。

3年6組15番 氏名：新垣 ナオ

## 1. 特設講演会 演題「美術と私—作家活動を通して」

「周りの環境が作家を支えている」と与那覇大智さんが1番最初におっしゃった言葉です。

私は、この言葉を聞いて「すごく大切なことだな」と感じました。

今、私が美術を学べるのも周りの環境に支えられているからであり、これから美術を続けるが、続かないかも周りの環境によって左右されるのだと思います。「周りの環境が作家を支えている」この一言で私はとても大切なことを学ぶことができました。

もう一つ、私が感動した言葉があります。それは、「絵画はもう一つの世界が広がっている」です。絵画の額は窓枠で向こう側にちがう世界が広がっているのです。私は「おもしろい考え方だな」と感動しました。違う世界が広がっているから、私たちはこんなにも絵画というものに魅かれるのかもしれないと思いました。

今日、講演を聞いて絵画に対する考え方が変わり意欲が湧いてきました。

## 2. 作品講評会

「静物画において「空間に安定して物が置かれている」ことが大切」やはり影が大切なんだなあと思いました。「案外、画面の大きさとモチーフは関係がある」という言葉をきいて画面の大きさは、適当に決めるだけではいけないということを知りました。

「モチーフを組むところから制作は始まっている」ときいて私も今回モチーフの数がかなり多かったかなと思いました。次描くときは、モチーフを組むところからいろいろなことを考慮していきたいです。講評会をきいて今後描くにおいて、大切なことを学べたと思います。とてもいい機会になりました。

1年6組22番 氏名：鈴木まこと

美術史を学ぶ機会として、世界・日本・沖縄の美術の流れに関する一般向けの講座（全10回）を開催した。美術について理解を深め、美術に対して意識の向上を図ることを目指したが、範囲が広すぎて内容が散漫な印象も受けた。県立芸術大学の先生方をはじめとした講師陣からは各分野専門の話が聞け、毎回30名程度の参加者がおり関心の高さが伺えた。



参加者に対して出席者カードを発行、リピーター誘致を図り、7回以上の参加者には講座最終回に展覧会チケットを進呈した。

#### 第1回

##### 「美術の始まり～ルネサンス」

日 程：4月27日（水）

講 師：翁長直樹 氏（美術評論家・前美術館副館長）

参加者：32人

#### 第3回

##### 「後期印象派」

日 程：5月25日（水）

講 師：浅野春男 氏（沖縄県立芸術大学 美術工芸学部芸術学専攻 教授）

参加者：33人

#### 第5回

##### 「20世紀美術（ポストモダニズム）」

日 程：6月21日（火）

講 師：翁長直樹 氏（美術評論家・前美術館副館長）

参加者：27人

#### 第7回

##### 「日本美術の流れ② 日本における彫刻」

日 程：8月3日（水）

講 師：小林純子 氏（沖縄県立芸術大学 美術工芸学部芸術学専攻 教授）

参加者：28人

#### 第9回

##### 「沖縄美術の流れ②ニシムイ以降」

日 程：8月31日（水）

講 師：翁長直樹 氏（美術評論家・前美術館副館長）

参加者：31人

#### 第2回

##### 「印象派」

日 程：5月11日（水）

講 師：浅野春男 氏（沖縄県立芸術大学 美術工芸学部芸術学専攻 教授）

参加者：24人

#### 第4回

##### 「20世紀美術（モダニズム）」

日 程：6月7日（火）

講 師：翁長直樹 氏（美術評論家・前美術館副館長）

参加者：31人

#### 第6回

##### 「日本美術の流れ① 日本における西洋の流れ」

日 程：7月20日（水）

講 師：稻嶽成祚 氏（画家・琉球大学名誉教授）

参加者：32人

#### 第8回

##### 「沖縄美術の流れ①ニシムイ美術村」

日 程：8月17日（水）

講 師：翁長直樹 氏（美術評論家・前美術館副館長）

参加者：32人

#### 第10回

##### 「現代美術」

日 程：9月14日（水）

講 師：土屋誠一 氏（沖縄県立芸術大学 美術工芸学部芸術学専攻 講師）

参加者：34人

## 美術館で学ぶ、美術館講座受講者の声

### 問1、今まで当館で開催された中で一番印象深い講座は何か？

※ 印象派、沖縄の美術家、現代美術など様々な講座に対する反響があるようだ。

「現代美術をもっと聞きたかった」

「8月17日（水）第8回「沖縄美術の流れ③ニシムイ美術村」翁長直樹氏の講座で、戦後の美術家が果たした大きな役割・活動に心打たれました。今後も、終戦直後に活躍した美術家の事をもっと広めてほしい。例えば、大城皓也氏などの作品を紹介してほしい。」

「浅野氏の“印象派”ご自身の考え方を素直に提示、提言していただいたこと。」

「難しいですが、稻嶺先生がよかったです。」

「今回初めて受講したので、今回の講座が一番興味深いです。とても、勉強になりました。現代美術に抵抗がありました。今回受講がきっかけで受け入れやすくなりました。ありがとうございました。」

「日本美術と西洋美術について、現代美術」

「印象派の中でも特にセザンヌについてもっと知りたくなりました。」

「ニシムイのお話」

「今回の講座もなかなか聞く機会の少ないシリーズだったと思います。絵画の実技講座もいろいろな先生方の考え方を吸収できて有意義なものだと思います。」

「ポストモダニズム」

「西洋美術のルネサンスからの変化」

### 問2、次に博物館で開催してほしい講座や講師の希望など

※ 今回の講座をもとにさらに一步ふみこんだ内容を求める声がある。

「これからも沖縄関係の美術と中国の美術との関連などを講座の中に取り入れてほしい。」

「再度視点を変えて美術の講座をお願いしたい。例：世界の美術館の紹介」

「今回の講座の各回をもう少し深く学べるような講座があれば嬉しいです。（現代美術について数回にわたっておこなうなど）」

「美術館として展示に工夫している点（国内、外の美術館の取り組みなど）を学んでみたい。沖縄県にとって教育が広まることを期待して。」

「オランダの作家をテーマに。特にフェルメール」

「戦前、戦後美術家たちのお話（人生観など）」

「又同じような講座押してほしい」

「ルネサンス・モダニズム～現代美術」

「特定の作家について集中的に学ぶ講座とか」



### 問3 その他感想や質問など

※ 今回ののみならず、また次回も期待する意見が多い。

#### 感想

「お疲れ様でした。有意義な時間ありがとうございました。ただ、もう少し現代（マイクロポップ系）の話も聞けたらよかったです。」

「このような楽しい講座を無料で受講できてよかったです。大変勉強になりました。ありがとうございました。」

「無料で受講できて感謝です。」

「この講座の事を1、2回が終了した時点で知ったので残念です。継続して開設してほしい。」

「絵画等の実技講座シリーズなど」

「現代美術の話はわかりやすく面白いです。また、このような機会があれば参加したいと思います。」

「資料がぼやけている、はっきりしない。」

「たまたま受講の機会を得ました。偶然に新聞でみかけたためです。すばらしい機会でしたので、多くの人々にも受講の機会になればいいと思います。」



### 1. 美術館夏休み 子供ワークショップ2011

#### (1)「おもろまちを描こう!」

館周辺の風景を描いてみよう。  
絵のベテラン、旺玄会の皆さんと一緒に  
楽しい絵にしよう。

講 師：沖縄旺玄会の皆さん

日 時：8月20日(土)  
9:30～13:30

場 所：屋外展示場、他(館周辺)  
対 象：小学生(小3以下は親同伴)  
参加者：22人



#### (2)「切り取る風景」

風景を「切り取って」キャンバスに  
描いてみよう。  
色を鮮やかに使う秘密も教えるよ。

講 師：佐藤大地 氏(画家)

日 時：8月20日(土)  
16:00～18:00

場 所：屋外展示場、他(館周辺)

対 象：小学5年生～中学生

参加者：3人

#### (3)「丸から生まれるカタチ」

粘土で土鈴を作ろう!  
丸から形を想像して、自分だけの  
鈴をつくろう。

講 師：香月礼 氏(陶芸家)

日 時：8月21日(日)  
14:00～16:30

場 所：博物館実習室

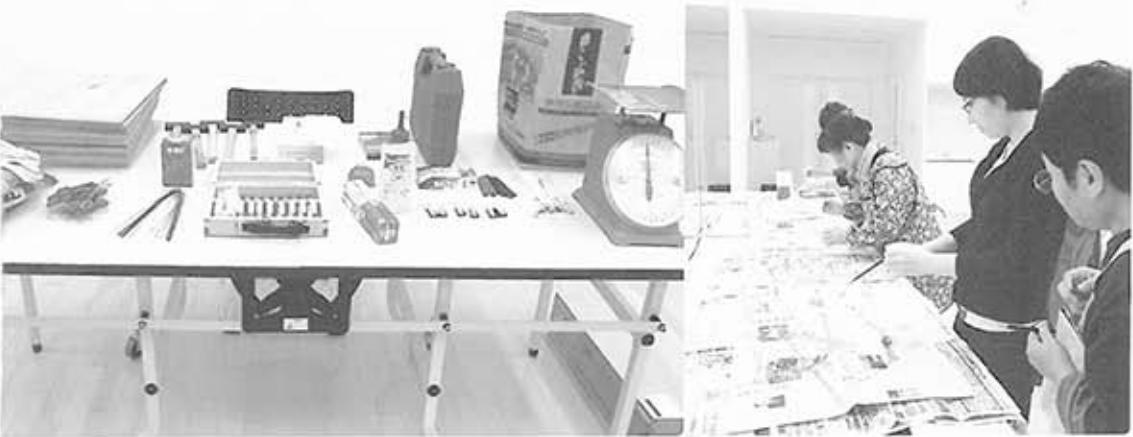
対 象：小学生

参加者：親子12組



子ども向けは創造性を生かす素材として粘土、画用紙ではなくキャンバスを用いた写生会、また親子で参加できるスケッチ会を行った。一般向けでは制作の面白さを体感できる実技講座を行った。一般講座は後日、修了展を開催した。

どの講座も講師と内容を詰め、試行錯誤ながらも参加者自身の発想を生かしたプログラムにしたいという狙いに参加者が期待以上の熱意で取り組んでくれたことは嬉しい成果だった。「制作する」その行為／時間こそワークショップの醍醐味と考える。



## 2. 大人の実技講座。 一般の方を対象とした講座。

### (1)「紅型に学ぶーでざいんのいろは」

自分で書いた絵を型紙にし染め、  
紅型の技法に習って制作します。

講 師：賀川理英 氏(紅型作家)

日 時：9月10日・24日

10月 8日・22日(土)

10:30～12:00

場 所：県民アトリエ

参加者：12人



### (2)「絵を描くこと。」

絵を描くことについて、考えながら進めます。  
絵を描くことが身近に感じられたらと  
思います。

講 師：眞栄田文子 氏(画家)

日 時：10月 7日・21日

11月11日・25日(金)

18:30～20:00

場 所：県民アトリエ

参加者：8人



### (3)「彫刻講座」

今、目の前になるものも見方を変えると  
彫刻といえるかもしれません。  
彫刻の表現を探ります。

講 師：堀園実 氏(彫刻家)

日 時：1月14日・21日

2月 4日・18日(土)

10:30～12:00

場 所：県民アトリエ

参加者：12人

■ 講座修了作品展 ■  
実技講座受講生による作品展

実施日：2月21日(火)～26日(日)

場所：県民ギャラリー1

来場者：約500人

3ヶ月前

2ヶ月前

1ヶ月前

2週間前

1週間前

ワーク  
ショップ

講師選定

講師決定

チラシ  
作成

講師と内容調整

広報

募集

葉書と通知

講師と打合せ

当日

# 展覧会関連ワークシート作成

## 「印象派の誕生」

制作者：大城直也（美術館班）

岡田有美子（happ）

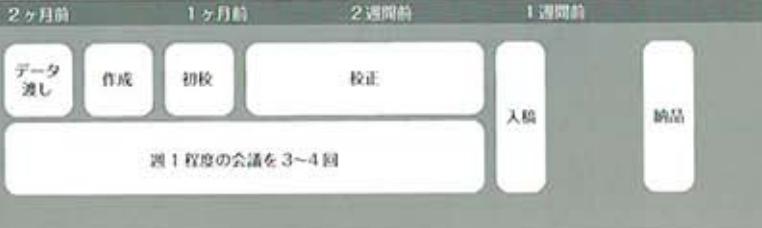
國吉貴奈、町田恵美（文化の杜）

- 日 時：①5月31日（火）14:00～15:00  
②6月8日（水）13:30～14:30  
③6月15日（水）11:00～12:30  
④6月22日（水）11:00～12:15



## 開催までの流れ

ワークシート



鑑賞の手引きとして、子ども対象のワークシートを作成。子どもの感性に呼びかけるよう、五感（視・聴・嗅・味・触）を感じさせる設問を心掛けた。また、作者やキーワードとなる事柄については解説を行い、作品をよく見ることを促し展覧会への理解を深めてもらった。展覧会ごとに体裁を変え、イメージを大切にした。

美術鑑賞に「答え」はない。それぞれの感じ方で作品に向き合えるような「対話する」存在としてワークシートを活用してほしい。

# 展覧会関連ワークシート作成

## 「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」

制作者：大城直也、大城仁美（美術館班）

平安絹子（happ）

町田恵美（文化の杜）

日 時：①9月 6日（火）

②9月14日（水）16:00～17:00

③9月21日（水）17:00～17:30



## 「玉那霸正吉展 彫刻と絵画の軌跡」

制作者：仲里安広、大城直也、大城仁美（美術館班）

平安絹子（happ）、町田恵美（文化の杜）

日 時：①11月17日（木） 11:00～12:00

②11月24日（木） 11:00～12:00

③12月 7日（水） 11:00～12:00

④12月14日（水） 11:00～12:00





京都在住で石垣島出身の映画監督、高嶺剛をお招きして、琉球大学の新城郁夫教授を聞き手に、これまでの制作について語っていただいた。最新作『PUPPET SHAMAN STAR』(2008年)の鑑賞を行い、「長編映画を作れないだろう」という、知人の言葉をきっかけに、作った初めての長編映画『バラダイス・ビュー』(1985年)まで、沖縄をテーマに作品を撮り続ける監督のスタンスや、映像の魅力を堪能する貴重な機会であった。

60年代から日本の写真界をリードし、絶大な影響力を發揮し続ける森山大道の写真の魅力は何か、生い立ちやこれまでの作家活動、親交のある写真家に至るまでその人物像に迫る話が伺えた。都市を彷徨しながら生み出されるスナップショットは世代を超えて多くの人を惹きつける。

会場には写真家を目指す若い世代も多く詰めかけ、高校生からの質問も飛び交った。作家本人の声を直接聞けたことは制作の面に限らず貴重な機会になったと考える。

**コレクションギャラリー3  
「サイト・シー・イング 沖縄美術をめぐる旅  
～島嶼性と異化」関連催事**

**高嶺剛監督作品**

**「PUPPET SHAMAN STAR」  
上映＆トークショー**

出 演：高嶺剛 氏（映画監督）

新城郁夫 氏（琉球大学法文学部教授）

司会進行：豊見山愛（当館主任学芸員）

日 時：6月17日（金）18:30～20:00

場 所：3F講堂

参加者：34人

**コレクションギャラリー2  
「森山大道 何かへの旅」関連催事**

**森山大道トークショー**

講 師：森山大道 氏（写真家）

聞き手：新里義和（当館主任学芸員）

日 時：1月27日（金）18:30～20:00

場 所：3F講堂

参加者：142人

## 「なぜ、女性たちは織に向かったのか」 -沖縄から女性美術を考える2

昨年10月に開催した「沖縄から女性美術を考える」に引き続き、戦後沖縄の女性たちによる表現の足跡を辿り、1945年以降の女性たちを支えた表現行為について検証しようとするシンポジウムである。

伝統を起点に美を見出した大城志津子（1932-1990）を基軸に、またフィリピン、インドなどアジア諸国との事例を通して、女性が表現することの本質について考える機会となり、また、沖縄のアジアにおける立ち位置を確認することが出来た。

**[午前の部] 10:00~11:45**

基調講演：「戦争・沖縄・女性—表現の位相」

豊見山愛（当館主任学芸員）

コメンテーター：喜納育江 氏（琉球大学法文学部国際沖縄研究所教授）

平良次子 氏（南風原町立南風原文化センター学芸員）

ディスカッション・質疑応答

**[午後の部] 13:00~17:00**

「インドの染織と女性」

金谷美和 氏（京都大学地球環境学堂三才学林研究員・  
国立民族学博物館外来研究員）

「フィリピンの織物にみる文化の模様（パターン）」

ノーマ・レスビシオ 氏（フィリピン大学芸術科教授）

ビデオトーク「恩師・大城志津子を語る」

上原美智子 氏（染織家）、新垣幸子 氏（染織家）

\*午後の部：質疑応答

司会：岡本由希子 氏（群島舎）

「なぜ、女性たちは織に向かったのか」-沖縄から女性美術を考える2

日時：10月15日（土）10:00~17:00

場所：3F講堂

参加者：78人



## コレクションギャラリー2 「日本の若手アーティスト」展関連催事 金氏徹平トークショー

金氏徹平の作品は、日用品、既製品をコラージュ的に組み合わせて、カタチを創り出す。素材を現地調達することで、身近なモノがアートとなって、鑑賞者に何かを想像させる。金氏は、活動の場を国内のみならず国外へも求めて、その場ごとに形態を変える。何かに囚われることのない、流動的な作品からは、優しさを感じさせる。

金氏徹平の制作実演を通しては、作家志望の学生へ意欲をかき立てることができたかに思う。また、沖縄県立芸術大学講師の土屋誠一氏との対談では、刺激的な話を得て、今後の美術館活動における展望となったことと思う。

**金氏徹平トークショー**

講師：金氏徹平 氏（アーティスト）、土屋誠一 氏（沖縄県立芸術大学講師）

日時：9月9日（金）18:30~20:00

場所：博物館講座室

参加者：71人



## ① 「國吉清尚—土と炎に生きた魂の軌跡」

陶芸家 國吉清尚（1943～1999）の大規模回顧展となり、1970年代から晩年までの器、酒器、茶陶、華器、オブジェなど、國吉の生きざまを昇華した作品を紹介。

沖縄の陶芸が「民芸」の視点で語られる一方で、それらを超越し独自の世界を創り出した作家、國吉は1963年頃から壺屋で修業、1966年に大学進学する一方、益子での約2年間の修業後に帰郷し、読谷で作陶を続けた。シンポジウムなどの関連催事では、國吉と生前親交のあった方々の声をもとに國吉清尚の作品表現に迫った。



### 「國吉清尚展関連催事」 シンポジウム

基調講演「國吉清尚に出会うというコト」講師：丹尾安典 氏（早稲田大学教授）

クロストーク：能勢裕子 氏（彫刻家）、真喜志好一 氏（建築家）

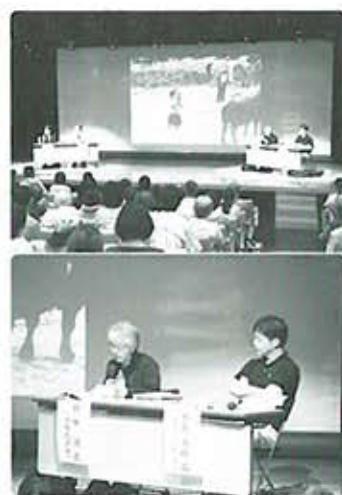
仲松昌次 氏（プロデューサー、ディレクター）、クレイトン・雨宮 氏（陶芸家）

司会：翁長直樹 氏（美術評論家）

日時：5月7日（土）14:00～16:00

場所：3F 講堂、博物館講座室（第二会場）

参加人数：255人



## ② 「生誕100年記念展 岡本太郎と沖縄」

岡本太郎生誕100年を記念して開催した本展は、彼が初めて沖縄を訪れた1959年前後の芸術活動に焦点をあてた企画である。岡本が撮影した沖縄の写真を中心に、絵画、立体、版画、ドローイングなど表現の枠にとらわれない、自由でエネルギーッシュな作品を紹介。また、岡本と沖縄の友人たちとの交流エピソードや証言などを通じて、沖縄から見えてくる岡本の姿を浮かび上がらせる内容となった。

関連催事としてシンポジウムや、「太陽の塔」をつくるワークショップなどを開催。ワークショップでは岡本作品の色と形の面白さに着目し、造形の楽しさを伝えた。

### シンポジウム「いま問う！岡本太郎と沖縄」

第一部 基調講演「岡本太郎と沖縄」 講師：赤坂憲雄 氏（学習院大学教授）

第二部 パネルディスカッション

コーディネーター：崎山律子 氏（フリージャーナリスト）

パネリスト：赤坂憲雄 氏、仲里効 氏（映像批評家）

本浜秀彦 氏（沖縄キリスト教学院大学准教授）

日時：6月2日（木）18:00～21:00(17:30開場)

場所：3F 講堂

参加者：150人

### ■印象派の誕生展

「印象派の誕生」に焦点をあて、歴史性や物語性を重んじたサロン絵画から、農民の姿や風景を主題としたバルビゾン派を経て、光あふれる情景を描くにいたった印象派までの流れ、そしてそれ以降の現代の美術へとつながる道すじを知る機会とした。

印象派のみずみずしい色彩や構図から、子どもの視点で作品を捉えることができる発問を設定した。ミレーやモネなど印象派の画家についての紹介も記載した子どもの鑑賞手引きとなるようなワークシートをめざした。



「印象派の誕生」  
関連催事

### 「切り取る風景」

風景を「切り取って」キャンバスに描いてみよう！

色を鮮やかに使う秘密も教えるよ。

講 師：佐藤大地 氏（画家）

日 時：8月20日（土）

16:00～18:30

場 所：屋外展示場、

他（館周辺）

対 象：中学生

参加費：1000円

参加者：3人

\*持参するもの

絵の具セット、帽子、水



戦後日本の写真史に数々の重要な足跡を残す東松照明(とうまつしょくめい1930-)は、日本の戦後史の特徴をアメリカニゼーション(米国化)と捉え、1950年代後半より「占領シリーズ」として全国の米軍基地周辺を取材。その最後の地として1969年に初めて沖縄を訪れ、**<OKINAWA沖縄 OKINA WA>**(1969年)を制作した。しかし沖縄の島々を取材する中で、アメリカニゼーションを拒む強靭で良質な文化と遭遇し、その強烈なカルチャーショックが、のちに名作**<太陽の鉛筆>**(1975年)へと結実する。

以来、東松は沖縄を見続け、日本のみならず沖縄の写真家に大きな影響を与えてきた。本展は、沖縄に関する重要な写真シリーズから最新作まで240点を展示し、その軌跡を俯瞰し、思想に迫る契機となった。

また、後進の育成にも心を碎いてきた東松の活動を受け継ぐ企画として、東松が2009年から沖縄で毎年開催してきたワークショップの卒業生を講師に招いたワークショップを企画開催した。小さな1歩ながら、若手から若手へと東松の教えを手渡し、後進を育てる機会となった。



### 「東松照明展」関連普及催事

#### キュレータートーク

講 師：新里義和（当館主任学芸員）  
場 所：企画ギャラリー1・2

1. 10月22日（土）15:00～16:00

2. 11月5日（土）15:00～16:00

#### ギャラリートーク

場所：企画ギャラリー1・2  
1. 日 時：9月24日（土）15:00～16:00  
講 師：山田實氏（写真家）

2. 日 時：10月15日（土）  
15:00～16:00

講 師：翁長直樹氏（美術評論家）

#### 鑑賞ツアー

案内人：鶴間逸子、ボランティア員  
日 時：11月12日（土）15:00～16:00

場 所：美術館企画  
ギャラリー1・2



#### シンポジウム

##### 第1部 対談

「太陽の鉛筆と宮古大学」  
東松照明氏、下地恵子氏（元・宮古大学メンバー）

パネリスト／飯沢耕太郎氏、大城弘明氏（写真家）  
金平茂紀氏（TBS『報道特集』キャスター、同局執行役員）、下地恵子氏  
コーディネーター／仲里効氏（批評家）

##### 第2部 基調講演

「インターフェイスへ—東松照明の作品世界」  
飯沢耕太郎氏（写真評論家）

日 時：10月2日（日）14:00～18:00  
場 所：講堂  
参加者：144人

##### 第3部 パネルディスカッション

「東松照明と沖縄」

#### 東松照明デジタルワークショップ沖縄卒業生による デジタルフォトワークショップ

講 師：堤義治氏、與那覇愛氏、田中芳氏  
上里エリカ氏、比嘉美由紀氏  
伊波リンダ氏、仲村ちはる氏

北上奈生子氏、新崎哲史氏  
日 時：9月3日・10日・17日・18日 / 13:30～17:30  
19日 / 9:00～18:00

場所：県民スタジオ  
受講者：11名

下記の日程で展示会を実施した。

#### デジタルフォトワークショップ展覧会

受講生による「11人展」  
講師による「フォトスライドショー light session」

日 時：9月27（火）～10月2日（日）  
場 所：県民ギャラリー2・3、ギャラリースタジオ  
入場者数：619人

# 展覧会関連普及催事

## 「沖縄近代彫刻の礎」

### 玉那霸正吉—彫刻と絵画の軌跡

沖縄の近代彫刻の礎として、玉那霸正吉が残した功績は大きい。戦後の沖縄美術界をリードし、作家としても活躍した。大学での後進の指導では、その作品作りの過程とともに己の美術哲学をも教鞭していた。今回企画展に関連しシンポジウムを開催。玉那霸彫刻の原点とは何か、彫刻から見えてくる玉那霸芸術の神髄を愛弟子の西村貞雄氏の講演で深く掘り下げていく。後半のシンポジウムでは、玉那霸彫刻についてパネリストから、玉那霸正吉「のぞみの像」の修復過程の様子、玉那霸彫刻と沖縄彫刻について、現在の若き彫刻を学ぶ学生の作品などを紹介した。



#### 【玉那霸正吉展】関連普及催事

##### キュレータートーク

場所：企画ギャラリー1・2

講師：仲里安広（当館主任学芸員）

日時：2月4日（月）15:00～16:00

##### ギャラリートーク

場所：企画ギャラリー1・2

講師：翁長直樹 氏（美術評論家）

日時：1月21日（土）15:00～16:00



##### 鑑賞ツアー

場所：企画ギャラリー1・2

案内人：ボランティア員

日時：2月11日（土）15:00～16:00

##### シンポジウム 玉那霸彫刻と沖縄の彫刻

コーディネーター：仲里安広（当館主任学芸員）

日時：2月12日（日）14:00～17:00

場所：3F講堂

参加者：74人

基調講演

「玉那霸正吉の造形論」

講師：西村貞雄 氏（琉球大学名誉教授）

パネリスト：西村貞雄 氏、富元明雄 氏（彫刻家）

小林純子 氏（沖縄県立芸術大学教授）

砂川泰彦 氏（沖縄県立芸術大学准教授）

##### 特別招待 名護小学校4年生

場所：企画展示室1・2

日時：①2月7日（火）

10:00～11:50

②2月8日（水）

10:00～11:50

参加者：①児童70人、比率3名

選賞ボランティア員5名

②児童70人、比率3名

選賞ボランティア員5名

概要：選賞ボランティア員の説明により、対話式による作品鑑賞を2点行い作品のよさを友達同士で味わう。また、修復されて本来の姿を取り戻したのぞみの像と対面しスケッチを行う。

## 移動展 in 宮古島

沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である当館の美術品を見てもらうことを目的とする移動展。第4回目となる今年は、宮古島で開催し、延べ6,231人の来場者が詰め掛けた。

美術館では、宮古島にゆかりのある作家を中心に写真・絵画・版画・彫刻など18作家36点の作品を展示。さらに、作品をより深く理解していただくためのワークシートを作成した。こちらは、子どものみならず大人にも配布し、初めて見る作品を前に「絵画って大きいんだね。近くて見ると色がいっぱい重なっているね。」と、様々な声が飛び交い、思い思いで鑑賞をする様子が伺えた。また、地元の高校生の協力で展示監視員を勤めてもらうことができた。今後も地域と連携をとり、より多くの方に美術作品に触れてもらう機会を作りたいと思う。



### 「移動展 in 宮古島」

日 時：2012年2月3日(金)～5日(日) 3日間  
場 所：宮古島中央公民館・宮古島博物館  
来場者数：6,231人  
※ 入場無料



毎月1回、普段は見ることの出来ない美術館の裏側を学芸員が案内した。年間を通して多くの参加者がおり、中には学芸員を目指す学生の姿も見られた。今年の5月からは、参加者にアンケートも実施。その結果から、展示室の華やかな様子のみならず裏側で行われている様々な活動を伝える事で、より美術館に親しみを抱いていただけるのではと感じた。

アンケート結果を活かし、次年度も多くの方に美術館における活動を伝えたい。



### 1. 性別

男	女	無回答	合計
16	41	0	57

### 質問1 2. 年齢

0~5歳	6~12歳	13~15歳	16~20歳	21~40歳	41~60歳	61歳以上	無回答
1	4	0	11	19	11	11	0

### 3. この催事を何で知りましたか?

新聞	館内チラシ	館内ポスター	インターネット	その他	無回答
4	11	6	17	5	0

※その他: テレビ・アナウンス・友人・受付(当館)・県広報誌

### 質問2 バッカヤードの内容はどうでしたか?

とてもよかったです	まあまあよかったです	ものたりなかった	無回答
51	7	0	0

### 質問3 説明はわかりやすかったですか?

とてもよかったです	まあまあよかったです	わかりにくかった	無回答
51	7	0	0

### 質問4 もう少し聞きたかった内容はありますか?

特になし	トラックヤード	IPM	一時保管庫	収蔵庫	室内換気	照明
15	2	1	3	4	2	1
展示準備室	学芸員事務室	資料室	工作室	修復室	無回答	

### 質問5 その他お気づきの点や感想がありましたらお書き下さい。

#### ■ 感想

「収蔵されている作品に近くふれることができておもしろかったです。」「とても勉強になりました。美術品の維持管理のすごさを実感しました。」「普段楽しく見ている作品の裏で、大変な作業があるのがわかり次回からもっと楽しく色々な事に気を付けて見て行きたいと思いました。」「有難うございました。」「違った視点で美術館が楽しめると思い、参加できよかったです。」「学芸員の資格を取りたいと思っており、その一部が見れて興味深かったです。」「消火設備や油圧エレベーターなど、作品を守るために工夫がとても多いことに驚きました。」「今日はありがとうございました。作品を集めての美術館・博物館ですが、ぜひ生きている方々の聞く仕事も多く時間をとって欲しいです。」「作品に対してすごく気を遣われていることがわかり良かった。P Cで画像を使用しての説明の際、後方からは少々見づらかった。でも、バッカヤードツアー楽しかったです。ありがとうございます。頑張ってください。」「ツアーありがとうございました。今回の岡本太郎展の様な展示の準備(企画から展示まで)の具体的な内容もききたかったです。沖縄でもっと色々な作品がみれば嬉しいです。」「このようなツアーがある事を友人から知りました。小さな子どもた

ちがこのようなツアーに参加したら沖縄の美術などに興味を持てるのではないか?と思いました。」「学芸員の職に就くのは狭き門だと感じた。収集が難しいことがわかりました。」「裏方でこんなに働いていることを知りませんでした。作品を守るためにすごく本気なのが伝わりました。すごいと思いました。ありがとうございました。」「地下室を見たかったです。」(他2件)  
「修復作業の様子を見てみたいです。」(他1件)  
「一般の方に伝えるのは、難しいとおもつた。「見える」「見る」だけでなく多くの方にわかりやすくお話しするとよかったです。」「普段見れない所を回されたので興味深かったです。」「はじめての経験で楽しかったです。維持管理はとても大事ですね。」「次回より展示を見る時は、これまでと違う視点で見られそうです。」「普通に体感できないところがあり楽しかったです。」「初めての参加でしたのでとても面白かったです。」「滅多に見ることの出来ないスペースを見ることが出来た増した。」「有難うございます。」「学芸員の方のお仕事がわかつたので勉強になりました。」

#### ■ 質問

「美術専用のトラック会社はどこの中会社ですか?」

#### ■ 要望

「ツアー内でクイズ等があれば子供もあきないかも。裏話のような話が興味深かったです。」「もっとこのツアーの宣伝をしてほしい。」「どのような修復の方法や作業があるのか、修復前と後でどう変わるのかなどが写真やパネルなどがあるともっと分かりやすかったです。」「時間ももっと長くしてほしい。」

# 実施統計

	No.	日程	場所	展覧会名	担当	参加人数
キュレーター・トーク 15:00~16:00	1	4月13日(水)	コレクションギャラリー1	「メコン4525Km—晩洋志写真展」	大城仁美(当館主任学芸員)	4人
	2	5月18日(水)	コレクションギャラリー1	「東京美術学校で学んだ県人—平田善吉展」	瑞慶山昇(副館長)	12人
	3	6月15日(水)	コレクションギャラリー3	「サイト・シーアイング沖縄美術をめぐる旅～島嶼性と異化」	豊見山愛(当館主任学芸員)	5人
	4	7月20日(水)	コレクションギャラリー2	「ニシムイ以降の美術家たち」	仲里安広(当館主任学芸員)	5人
	5	9月21日(水)	コレクションギャラリー1	「池袋モンパルナスの画家—佐田勝」	大城直也(当館主任学芸員)	4人
	6	10月22日(土)	企画ギャラリー1・2	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	新里義和(当館主任学芸員)	16人
	7	11月5日(土)	企画ギャラリー1・2	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	新里義和(当館主任学芸員)	43人
	8	12月21日(水)	コレクションギャラリー2	「日本の若手アーティスト展」	豊見山愛(当館主任学芸員)	4人
	9	1月25日(水)	コレクションギャラリー3	「サイト・シーアイング沖縄美術をめぐる旅～島嶼性と異化」	豊見山愛(当館主任学芸員)	3人
	10	2月4日(土)	企画ギャラリー1・2	「沖縄近代彫刻の謹 玉那霸正吉—彫刻と絵画の軌跡」	仲里安広(当館主任学芸員)	15人
	11	3月21日(水)	コレクションギャラリー1	「津野力男写真展」	大城仁美(当館主任学芸員)	6人
アーティスト・ギャラリートーク 15:00~16:00	1	4月16日(土)	コレクションギャラリー3	「緑の画家—安次嶽倉正」	宮里正子氏(浦添市美術館館長)	18人
	2	5月21日(土)	コレクションギャラリーホワイエ	「東京美術学校で学んだ県人—平田善吉展」	福嶋成恭氏(琉球大学名誉教授/画家)、島袋文雄氏(県美術教育推進協議会顧問)	34人
	3	6月18日(土)	ホワイエ	「サイト・シーアイング沖縄美術をめぐる旅～島嶼性と異化」	栗園久直氏(美術家)	34人
	4	7月16日(土)	コレクションギャラリー2	「ニシムイ以降の美術家たち」	鶴長直樹氏(美術評論家)	7人
	5	9月24日(土)	企画ギャラリー1・2	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	山田實氏(写真家)	62人
	6	10月15日(土)	企画ギャラリー1・2	「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	鶴長直樹氏(美術評論家)	19人
	7	11月19日(土)	美術館講座室	「池袋モンパルナスの画家—佐田勝」	熊谷雅氏(豊島区立熊谷守一美術館館長)	19人
	8	1月21日(土)	企画ギャラリー1・2	「沖縄近代彫刻の謹 玉那霸正吉—彫刻と絵画の軌跡」	鶴長直樹氏(美術評論家)	9人
	9	2月18日(土)	コレクションギャラリー1	「津野力男写真展」	前原基男氏(沖縄写真連盟会長)	17人

## バックヤードツアー

vol	日 程	担 当	参加人数
1	4月 9日	瑞慶山昇	4人
2	5月 7日	大城仁美	13人
3	5月 21日	大城直也	12人
4	6月 11日	豊見山愛	12人
5	7月 9日	新里義和	2人
6	8月 6日	大城直也	台風の為、中止。
7	9月 3日	仲里安広	5人
8	10月 1日	豊見山愛	2人
9	11月 5日	大城直也	4人
10	12月 3日	新里義和	6人
11	1月 7日	大城仁美	9人
12	2月 11日	仲里安広	7人
13	3月 11日	大城直也	6人

# 実施統計

ボランティア育成講座  
18  
00  
5  
20  
00

鑑賞ツアー  
15  
00  
5  
16  
00

No.	日程	場所	展覧会名	担当	参加人数	備考欄
1	5月20日(金) 18:30~20:00	美術館講座室、展示室	レクチャー「鑑賞ツアーやとは?」	大城直也 (当館主任学芸員)	12人	※5月28日(土) 13:30~15:00も同様の講座を開催。(参加者:2人)
2	5月21日(土) 1・2・3	コレクションギャラリー	「東京美術学校で学んだ県人 - 平田善吉展」「ニシムイ以降の美術家たち」「サイト・シーディング 沖縄美術をめぐる旅~島嶼性と異化」(前半)	瑞慶山昇(副館長) 仲里安広、豊見山愛 (当館主任学芸員)	10人	
3	9月8日(木) 18:00~19:30	美術館講座室	「池袋モンパルナスの画家 - 佐田勝展」「日本の若手アーティスト」「サイト・シーディング 沖縄美術をめぐる旅~島嶼性と異化」(中期)	大城直也、豊見山愛 (当館主任学芸員)	8人	
4	9月21日(水) 企画ギャラリー1・2		「東松照明と沖縄 太陽へのラブレター」	新里義和 (当館主任学芸員)	9人	
5	1月9日(月・祝) 美術館講座室、企画ギャラリー1・2		「沖縄近代彫刻の傑 玉那翁正吉一彫刻と絵画の軌跡」	仲里安広 (当館主任学芸員)	6人	
6	1月20日(金) コレクションギャラリー1・2・3		「津野力男写真展」「大和コレクション展Ⅱ期」「サイト・シーディング 沖縄美術をめぐる旅~島嶼性と異化」(後期)	大城仁美、新里義和、 豊見山愛 (当館主任学芸員)	4人	

※上記は開催予定のため、実際の開催日程や内容は変更される場合があります。

学校団体受入				
No.	日時		学校名	人数
1	6月21日(火)	9:45~11:45	若狭小学校 5年生	64人
2	7月7日(木)	① 9:15~10:00 ② 11:20~12:05 ③ 14:20~15:15	兼城中学校 1年生	84人
3	7月15日(金)	9:45~11:45	浦添工業デザイン科 1年生	80人
4	11月2日(水)	9:45~11:00	南城市立船越小学校 4年生	51人
5	2月7日(火)	9:30~11:30	名護市立名護小学校 4年生	70人
6	2月8日(水)	9:30~11:30		70人
7	2月17日(金)	10:00~12:00	うるま市立高江洲小学校 4年生	79人

さいごに

教育普及活動は、美術館という媒体を通して、人と人、人と作品、人と他の何かを結びつける活動である。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、そして、見直したりすることで新しい自分を生みだす「場」なのである。

今年度も、シンポジウムや講演会、実技講座やトークイベントに関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆様方、たくさんの力添えのおかげで、このような報告書としてまとめることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

平成23年度  
沖縄県立博物館・美術館  
美術館教育普及報告書

2012年3月31日

——発行——  
沖縄県立博物館・美術館  
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1  
TEL.098-941-8200(代表)

——教育普及担当——  
大城直也(沖縄県立博物館・美術館)  
大城仁美(沖縄県立博物館・美術館)  
町田恵美(文化の杜共同企業体)  
大浜萌子(文化の杜共同企業体)

